

CD Collection

『源氏物語』全五十四帖に挑戦、
好評を博した貴重な公演の記録を
いつでも、どこでも、
何度でも楽しめる、
CD106枚に収めました。

三田村雅子（解説）×幸田弘子（朗読）

夢の共演を完全収録

（会場・彩の国さいたま芸術劇場）

「源氏物語五十四帖」

聴いて楽しむ

壮大なプロジェクト！九年の歳月をかけて完結



© 浅野いずみ

紫式部の名文を表情豊かに
生きた古典のことは“で語る”
幸田 弘子
（女優・舞台朗読家）



© 浅野いずみ

先端的な研究をユーモアも交え
身近な出来事のように読み解く
三田村 雅子
（国文学者・フェリス女学院大学名誉教授）



各公演で使ったオリジナルテキスト(A4版)進呈
（朗読原文、和歌の解説、系図、重要ポイントほか）

三田村 雅子（国文学者・フェリス女学院大学名誉教授）

早稲田大学大学院卒業、専攻は物語文学・日記文学。NHK教育テレビ
「古典への招待」で、長年にわたり講師をつとめ人気を博す。著書『源氏
物語 感覚の論理』『枕草子 表現の論理』（有精堂）、『源氏物語絵巻の謎
を読み解く』（三谷邦明との共著・角川選書）、『天皇になれなかった皇
子のものがたり』（新潮社・とんぼの本）ほか

幸田 弘子（女優・舞台朗読家）

NHK東京放送劇団に入り放送・舞台で活躍。舞台朗読という新しい
分野を確立した功績に対し、1981年、1982年、1984年芸術祭優秀賞
を受賞。さらに1984年度芸術選奨文部大臣賞、1995年毎日芸術賞、
1996年紫綬褒章、2003年旭日小綬章など数々の賞に輝き、この公演
中にも日経新聞で聞きたい朗読の一位に選ばれる。

◇上巻◇

「桐壺」～「朝顔」18公演（CD36枚）

巻数	タイトル	収録時間
1	桐壺	1 時間 26 分
	雨夜の品定め（帯木）	1 時間 36 分
2	空蟬	1 時間 29 分
	夕顔	1 時間 46 分
3	若紫	1 時間 56 分
	末摘花	1 時間 44 分
4	紅葉賀	1 時間 34 分
	花宴	1 時間 30 分
5	葵	1 時間 46 分
	賢木	1 時間 46 分
6	須磨（花散里含む）	1 時間 48 分
	明石	1 時間 46 分
7	湊標	1 時間 57 分
	蓬生・関屋	1 時間 36 分
8	絵合	1 時間 37 分
	松風	1 時間 44 分
9	薄雲	1 時間 42 分
	朝顔	1 時間 35 分

◇中巻◇

「少女」～「幻」20公演（CD40枚）

巻数	タイトル	収録時間
10	少女	1 時間 56 分
	玉蔓	1 時間 54 分
11	初音・胡蝶	1 時間 49 分
	螢・常夏	1 時間 42 分
12	篝火・野分	1 時間 50 分
	行幸・藤袴	1 時間 49 分
13	真木柱	1 時間 54 分
	梅枝	1 時間 35 分
14	藤裏葉	1 時間 43 分
	若菜 上 一	1 時間 38 分
15	若菜 上 二	1 時間 52 分
	若菜 上 三	1 時間 44 分
16	若菜 下 一	1 時間 24 分
	若菜 下 二	1 時間 32 分
17	柏木	1 時間 44 分
	横笛	1 時間 29 分
18	鈴虫	1 時間 33 分
	夕霧	1 時間 54 分
19	御法	1 時間 31 分
	幻	1 時間 34 分

◇下巻◇

「勾宮」～「夢浮橋」15公演（CD30枚）

巻数	タイトル	収録時間
20	勾宮・紅梅	1 時間 34 分
	竹河	1 時間 37 分
21	橋姫	1 時間 42 分
	椎本	1 時間 47 分
22	総角 一	1 時間 40 分
	総角 二	1 時間 35 分
23	早蕨	1 時間 42 分
	宿木 一	1 時間 26 分
24	宿木 二	1 時間 43 分
	東屋	1 時間 44 分
25	浮舟 一	1 時間 42 分
	浮舟 二	1 時間 41 分
26	蜻蛉	1 時間 33 分
	手習	1 時間 44 分
27	夢浮橋	1 時間 11 分

●本作は、「彩の国さいたま芸術劇場」で収録した音源をもとに、場内の雰囲気はそのままノイズを除去し可能な限りお聴きやすくなるようリマスターしております。
●価格は別紙のご注文書をご参照ください。



発売元：株式会社 ジェーピー

〒104-0045

東京都中央区築地 2-11-26 築地 MK ビル 7F

TEL:03-6264-2501 (代表) FAX:03-6264-2502

●お問い合わせ— 直販事業部



0120-366-004

受付時間／午前10:00～午後5:00(月～金)
http://jpww.co.jp

上巻

「桐壺」〜「朝顔」18公演

CD 9巻 36枚

第一回公演「桐壺」きりつば

【あらすじ】

光源氏の父母である桐壺帝と桐壺更衣の悲恋は、身分や境遇を越えた激しい破滅的な愛で、その後の光源氏の生き方に大きな影響を与えます。

【解説・三田村】

それ程の身分ではない、その更衣がすぐとぎめいたという二つのことが、一つにギュッとおさめられ語っている文章でありまして、このつつかかるような調子に、実は紫式部の「ある熱の高まり、想いの高ぶり」というものを感じるような気がいたします。「愛情を規定するものは身分なのだ」という当時の社会的な常識の関係を打ち出していて、しかも「桐壺帝と桐壺更衣は、それに逆らいあらがっていた」。これが実は、『源氏物語』の主題なんだということ語りかけている、そういう冒頭でもあると思います。

いづれの御時にか、女御、更衣あまたさぶらひたまひける中に、いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めきたまふありけり…

第二回公演「雨夜の品定め」

あまよのしなさため（「帚木」より）

【あらすじ】

十七歳の光源氏が恋の冒険をするきっかけともなった、宮廷の雨の夜に繰り広げられる男たちの遠慮のない女性評論の場面。なぜ物語の始めに、女性に辛辣な評が書かれるのかを見ていきます。

【解説・三田村】

多分、この作者が女性だけを読者に考えたくなかったということですね。漢文を大変勉強していて、学者の父親の影響も受けている紫式部という人が、物語なんか読む人じゃないと思われるいた男性たちも含め、もっと広い読者を獲得しながら、自分の新しい物語を書いていきたい。それは光源氏の恋の物語であると同時に、男たちに関心のある政治の物語でもあるし、彼が成り昇って行くドラマでもある。そういう意識がこういう複雑な書き方を要請したんだろうと思います。

長雨暗れ間なきころ、内裏の御物忌さしつづきて、いとど長居さぶらひたまふを、大殿にはおぼつかなく恨めしく思したれど、…

〈お客様の声〉
家に居ながら、現代最高の「朗読」と「解説」を一度に聞くことができて嬉しいです。何回聞いてもいい。毎日が楽しみです。
(広島県 30代 女性)



桐壺

中巻

「少女」〜「幻」20公演

CD 10巻 40枚

第二十一回公演「初音・胡蝶」はつね・こちよう

【あらすじ】

六条院は新春の華やきに満ち、光源氏・紫上を中心に理想的な体制がスタート。桜の盛り、紫上は紅葉のお返しにと桜と山吹を折って胡蝶姿の童に持たせ、二艘の舟に乗せて隣の秋好中宮のもとに。そうした中で光源氏が玉鬘に…

【解説・三田村】

「初音」の巻というのは、戦があつた時代に非常によく読まれた巻なんです。つまり、これは平和を回復したっていうことの喜びを表す、そういう巻でありまして。「応仁の乱」もそうですけれども、江戸幕府が開かれた時に、徳川家康が、『源氏物語』を教えて欲しいとお茶室で伝授を受けて、一番最初に読んだのが、この「初音」の冒頭なんです。家康はとても高く小さい声で読んだと、その当時の記録に残っています。どんな感じだったんでしょうか？

年たちかへる朝の空のけしき、なごりなく曇らぬうららかなには、数ならぬ垣根の内だに、雲間の草若やかに色づきはじめ…

〈お客様の声〉
私の宝物！能（観世流）に『源氏物語』を題材にした演目があり勉強しているのですが、五十四帖すべてが揃い、耳で聞いてわかり、情景を想像できるのが嬉しい。（東京都 60代 女性）

下巻

「匂宮」〜「夢浮橋」15公演

CD 8巻 30枚

第五十回公演「浮舟」うきふね

【あらすじ】

浮舟が薫によって宇治に囲われていることを突き止めた匂宮は宇治を訪れ、彼のふりをして浮舟と結ばれます。ところが薫は浮舟の変化に女としての成長を感じ取るばかり。やがて匂宮は雪の中、浮舟を対岸の別荘に連れ出し…

【解説・三田村】

月が出ている、そのところにですね、一端近く―宇治川を眺めています。―男は、過ぎにし方のあはれをも思し出て―薫の方は、過ぎにし方、「大君と一緒に眺めたなあ」と思つて眺めているのに、女は、―今より添ひたる身のうさを嘆き加えて―「これからどうなるだろう？」と匂宮の方に心がいつている。男は過去、女は未来を見ている。二人で並んでその宇治川を見ているながら気持ちはすれ違っている。非常に皮肉な場面ですね。

朝日ごろの夕月夜に、すこし端近く卧してながめ出だしたまへり。男は、過ぎにし方のあはれをも思し出て、女は、…

浮舟

〈お客様の声〉
光源氏が活躍する頃も好きですが、「宇治十帖」は薫と匂宮の性格の違いが面白い。読んでいると母の気持ちになり、じれったいやら…
(埼玉県 50代 女性)



明石

